

圓覚寺 護持会会報

文 殊

平成31年 新春号



興聖寺様

朽木公の
ルーツを訪ねる



覺傳寺様

平成31年
第8号

平成31年度の主な行持予定

- 1月 1日(火) 修証会 (元朝互礼会) 10時・11時の2回
- 12日(出) 大般若法要 (大般若経六百卷の転読祈願法要)
- 2月 15日(金) 涅槃会 (お釈迦様ご命日)
- 3月 18日 (予定) 圓覚寺彼岸会 (春彼岸入りの日)
日 (日時調整中) 護持会決算会
日 (日時調整中) 全 決算会
日 西国三十三ヶ所巡拝
- 4月 29日(月) 和敬会花まつり (石原：洞玄寺)
- 5月 8日(水) 降誕会 (お釈迦様ご誕生)・円覚寺花まつり
9日(休) 頼光寺本堂落慶法要
- 5月 22日(水)～24日(金) 梅花流全国奉詠大会 (熊本市)
- 7月 3日(水) 仏教文化大講演会 (厚生会館)
5日(金) 中丹梅花奉詠大会 (厚生会館)
日 子供禅の集い (福知山地区)
- 7月末～8月初旬 遠方棚経
- 7月 28日 (日時調整中) 圓覚寺境内作務 (役員・会員他)
- 8月 1日(休) 土師観音盆供養・夜施餓鬼 (施食会連夜)
4日 (予定) 土師墓地お墓掃除 (お檀家一軒に一人)
6日(火) 8:15 原爆追悼平和の鐘
- 8月 8日(水) 孟蘭盆大施食会 (並ニ、初盆大施食会)
9日(金) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
10日(出) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
11日(日) 土師宮町区・土師新町東区棚経
12日(月) 土師新町南区棚経
13日(火) 土師町区棚経
- 14日(水) 孟蘭盆 (お盆寺参り、午前中本堂開放)
16日(金) 丹波大文字送り火 (法要：厚生会館)
- 8月 18日 (日時調整中) 地藏盆 (土師新町南、地藏堂)
- 8月 24日 (日時調整中) 地藏盆参り (遠方)
- 9月 20日 (予定) 圓覚寺彼岸会 (秋彼岸の入り)
- 9月 21日 (予定) 彼岸参り (遠方)
- 10月 17日 (予定) 仏教振興会研修旅行
17日 (調整中) 土師地区出身戦没者追悼慰霊祭
- 12月 8日(日) 釈尊成道会、未修年忌供養等併修
13日(金) 大すす払い
- 31日(火) 除夜の鐘・歳末調経

- 毎月1日午前6時半 読経会 (朝のお勤め会) 1月を除く
- 毎月第1・3金曜日 梅花講詠讃歌 (日時変)
- 毎月第1・3火曜日 午前10時 寿会写経会 (日時変)

円覚寺護持会役員紹介

任期	平成二十八年四月～ 平成三十一年三月まで
総代 (敬称略)	伊東 高志 (土師町)
代表総代	伊東 高志 (土師町)
総務担当	芦田 充也 (土師宮町)
墓地管理者	芦田 忠義 (土師新町南)
会計担当	芦田 幸雄 (土師新町南)
会計監査	芦田 俊朗 (土師宮町)
全	佐藤 洋司 (土師新町東)
運 営 委 員	第一班 伊東 かね子 (土師新町南) 第二班 芦田 敏彦 (土師新町南) 第三班 高橋 誠一 (土師新町南) 第四班 木下 真理子 (土師新町東) 第五班 足立 勝成 (土師宮町) 第六班 芦田 太一 (土師宮町) 第七班 芦田 俊文 (土師宮町) 第八班 芦田 義則 (土師宮町) 第九班 佐藤 清司 (土師宮町) 第十班 佐藤 洋司 (土師宮町) 第十一班 伊東 昇 (土師宮町) 第十二班 伊東 幸代 (土師宮町) 第十三班 芦田 均 (土師宮町) 第十四班 芦田 哲一 (土師宮町) 第十五班 芦田 均 (土師宮町) 第十六班 芦田 均 (土師宮町) 第十七班 芦田 哲一 (土師宮町)

平成三十一年度年回表

一周忌	平成三十年没 (二〇一八年)
三回忌	平成二十九年没 (二〇一七年)
七回忌	平成二十五年没 (二〇一三年)
十三回忌	平成十九年没 (二〇〇七年)
十七回忌	平成十五年没 (二〇〇三年)
二十五回忌	平成七年没 (一九九五年)
三十三回忌	昭和六十二年没 (一九八七年)
五十回忌	昭和四十五年没 (一九七〇年)
百回忌	大正九年没 (一九二〇年)

【編集後記】

新しい年の始まりに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年「朽木家のルーツを訪ねての旅」の企画には三十七名の多数のご参加を頂き有り難うございました。円覚寺には福知山藩主朽木家墓所として第七代・第十二代・第十三代ご令室のお墓をお祀りしてあります。また今の当主十六代朽木彰氏 (八十歳) は京都で昨年他界しておられます。福知山史談会の円覚寺彼岸寓話「朽木十三代とその後」によりますと、奇跡の出会いととして、昭和四十三年椒徳高校の島原修学旅行で福知山山下絵図を「発見、大手柄」と有ります。その後、各方面から福知山城に関する図面が次々に発見され、城の再建計画に弾みつき、昭和六十一年に再建されました。昭和五十八年このような事が縁で島原市と姉妹都市となりました事は、実に有意義な事と思われまます。

総代総務担当 芦田 充也

■発行所
圓覚寺護持会会報編集部
住所／京都府福知山市宇土師一七七
電話／〇七七三(二七)四四四七

賀春



平成最後の年が明けました。新年おめでと
うございます。

東京オリピックに大阪万博と明るい話
題は多いですが、人々の足元も明るくなっ
て欲しいものです。昨年は一月早々に大般
若経六〇〇巻の修復事業を終え、秋には長
年の希望でありました旧藩主朽木公のルー
ツを訪ねる旅を行いました。郷土史に対す
る関心も深まり、お寺こそが散失の危機に
ある古き文化の継承や収集をしなくてはな

住職 成田大航

けないのではないかという思いが強くなっ
てきました。又、私事になりますが、ここ
数年副住の結婚や家族のお祝い事が重なり、
慶事とは言いながら、総代さん始めご縁の
皆様方にはその都度に祝儀やお祝いの言
葉を賜りまして大変恐縮至極を致しており
ます。誠に有り難くお礼申し上げます。

亡き人と共に生きる



一ヶ寺の住職をさせて頂いて気がつかさ
れた事なのですが、日本人の宗教観を簡易
に表すならば「亡き人と共に生きる」とい
う事が言えるのではないかと思うのです。
釈迦の説いた仏教は、必ずしも先祖崇拜と
いう事ではなく、非常に透脱した「いのち
の有りよう」というような、普遍的な実践
哲学であると言われています。

しかしながら、東アジアの多くの国に伝
わる中で、それぞれの国民性に応じて、長
い時間をかけてそれぞれの国の仏教が出来
てきました。日本では地勢上、天災や飢饉
で人々が苦しんできた長い歴史の中から

謹賀新年

新年明けましておめでとようございます。
檀信徒の皆様におかれましては新しい年を
迎え益々ご健勝のこととお慶び申し上げま
す。日頃、円覚寺護持会の運営には大変な
ご理解、ご支援、ご協力を賜っていますこ
とに厚く御礼申し上げます。

昨年は十月二十七日に「朽木家のルー
ツを訪ねて」という旅行を企画挙行しました。
総勢三十七名の参加で滋賀県の高島町の覚
伝寺、朽木村の興聖寺に伺って各寺院の住
職より朽木家のルーツに関わる色々なお話
などお聞きし、景勝地びわ湖バレイにも登
り昼食をとり楽しい有意義な一日を過ごし
ました。ただ他には大きな行事(持)もひと
休みの年であり、総代会でもお寺の建物の
保守整備などについて色々考える機会が
持てる年でもありました。

そんな中で、昨今各地で大きな地震、冬
場の厳しい寒さ、夏は豪雨で洪水や山崩れ、
耐えられないような猛暑、秋口には猛烈な
台風に襲われるというように地球温暖化の
一環で日本は元より世界の各地で異常気象
が起こっています。その様な過酷な自然環

代表総代 伊東高志

境の元で菩提寺を維持管理していく使命を
担っている護持会としても災害に備えるべ
く色々な課題が持ち上がっているのは当円
覚寺だけではないようです。多くの寺院は
一般的に相当古い建物が多く、如何にして
維持管理をしていくかという課題があり補
修、修理を急いでいる寺院があちこちで見
受けられます。

当円覚寺の本堂についても築後一八〇余
年が経っており、昨年専門業者に見ても
らった所、ひどい雨漏り、瓦の破損や屋根裏
の梁の腐り、獣の害など相当傷んでいるこ
とが分かり驚きでありました。建物自体も
当然現在の建築基準法には達していないと
のことで補修の必要性の指摘があり、建物
の基礎と屋根の補修は先決問題との事とし
た。補修となればそれなりの費用が掛かる
ことは明らかであり頭の痛い問題でありま
す。しかし先送りしてもいづれは近い将来
には何か手を打たなくてはならないでしょ
う。六年後の文殊菩薩のご開帳や、やがて
は来る晋山式などの大きな行事(持)に焦点
を合わせるのも一つの方策だと考えます。

「極楽浄土」という「あの世」を常に意識
した宗教観が出来上がりました。その中か
ら人は亡くなっても中陰という期間を過ご
し、無事に向こう岸(彼岸)に渡ってから
三十三年までの長い旅をされている。もし
て生前の塵垢がすべて洗い流されて先祖の
霊である「祖霊」へと帰っていくのだ。と
いう先祖を敬う宗教観が養われたのではな
いかと思うのであります。

朝、仏壇にお線香を立て、お鈴を鳴らし、
背筋を伸ばして合掌をして一日が始まる。
毎朝どんなに忙しくても、般若心経をお唱
えしないと気持ちが悪いですとお話しく
ださる方もおられます。この方にとって亡
き人は、「ここには居ない」のではあるけ
れど、しかしその方の人生の中にはしっか
りと「居る」。居ないけど居るといふ一見
矛盾に満ちた表現ではありますが、「亡き
人と共に」生きていくという姿を沢山見さ
せて頂きました。今は向こうの岸に渡られ
た方も多いですが、お一人お一人のお顔は
鮮やかに思い出されます。有り難い事に、
教えられ育てて頂いて住職三十三年目を迎
える事が出来ました。本年も恙なく佳き年
となりますよう念じ上げます。

合掌

新しい年号に
代わる年を契
機に護持会と
してもこの課
題に真剣に取
り組んでいく
必要があると
考えている所
であります。

合掌



軒先化粧材に雨漏り跡、腐食が進む部分も
登り梁が継いであり軒垂れの原因に



雨漏りによって野地板が折れた状態

朽木公のルーツを訪ねる旅

秋彼岸会には福知山史談会事務局長、中村邦夫様を招き「藩主朽木家十三代」についての講演を頂き、大変関心も深まり、念願でありました、円覚寺に大変関係の深い福知山藩主「朽木公」のルーツである滋賀県朽木村を訪ねる事が出来ました。当日は晴天はおるか、場所によっては激しい雨の予報でしたが、ご参加の皆様のご精進のお陰にてお天気も回復し、一番心配していたびわ湖バレイでは陽に輝く琵琶湖を望むことが出来ました。



道元禪師命名の朽木谷興聖禪寺

梅長院(ばいちょういん)
朽木氏第十四代元綱の第三子(種綱)が相続した一千十石の近江高島郡の領地を福知山藩近江領といい、梅長院を建立し菩提寺とした。
寛文十二年(一七二二)曹洞宗覚傳寺十世桂岩和尚を開山として創建。本尊聖観世音菩薩。明治の廃藩後は本尊とも散失、現在は本寺覚傳寺様にお位牌をお祀りしている。

高岳山 覚傳寺(かくでんじ)
滋賀県高島市新旭町饗庭。応永九年(一四〇二)、西林坊義光が堂宇を再建して後、永享元年(一四二九)越前国(現、武生市)興善寺四世の唄庵宜梵を請して、覚伝寺を開山。本堂に聖観世音菩薩を安置。

高巖山 興聖寺(こうしやうじ)
滋賀県高島市朽木岩瀬。創建・嘉禎三年(一二三七)寛元元年(一二三三)開山・道元禪師。朽木本家の菩提寺。寺名(興聖寺)は、かつて道元禪師が京から越前へ向われる道中、この地が興聖寺のあった伏見深草に似た景観だと喜ばれて、同名の寺院建立を勧められたことに由来している。

興聖寺を菩提寺とする朽木家は鎌倉幕府の有力御家人だった佐々木信綱の子供である高島高信の次男頼綱の三男義綱が近江国朽木庄(現在の滋賀県高島市)に配され、地名に因み「朽木」姓を名乗ったのが始まりとされる。朽木家は高島七頭の一翼を担う一方で幕府の御家人でもあったが、南北朝時代に入ると北朝方の足利尊氏に属し転戦。この功により高島七頭の中で朽木家が室町將軍足利家と近い存在となり信任も厚かった。戦国時代に入り、同じ佐々木信綱の後裔の一族である六角氏に従うが、



位牌堂にて歴代のご住職の位牌にお参り



新築になった覚傳寺様本堂にてご住職のお話を傾聴する



足利庭園を森ご住職のご案内にて説明を頂く

朽木種綱は足利義晴の申次衆・内談衆に就任し足利家の側近として頼られる存在となった。開山堂の懷装禪師像(当寺のご開山)が、元は永平寺承陽殿(御真廟)にあったもので、逆に現在の承陽殿の道元禪師の御真像は、元は朽木興聖寺に安置されていたとのこと。かつて火災で焼失した御真像の代わりに永平寺に奉納した際、その代償としてに拝領されたそうで、承陽殿の御真像は秘仏であるが、当寺では懷装禪師像に見えることが出来るのは、大変貴重なことである。

- ◆ご参加者(敬称略)
- 菅田章夫・菅田慶子・菅田早苗・菅田修一・菅田正吾・菅田忠義・菅田照男・菅田照代・菅田政子・菅田マリ・菅田充也・菅田みや子・菅田幸雄・伊東かね子・伊東高志・伊東昭子・伊東年江・伊東雅子(土師新町)・伊東雅子(土師)・木下蓮華・木下操・古島高夫・小前美佐子・佐藤たま多・佐藤富士子・佐藤正雄・佐藤八重子・佐藤喜信・鈴木満子・寺田英子・中村邦夫・野村多恵子・細見昌子・成田大航・成田宗寛・成田順子・成田唯 各位

←興聖寺様でのご法話は
こちらから(QRコード)

朽木家のルーツを訪ねて
土師新町南 伊東雅子
平成三十年十月二十七日(土)参加者に乗せたバスは、七時二十八分、ともしげ前を出発して旅は始まった。

まず、私たちの菩提寺である圓覚寺は、創建が江戸時代初期の慶長十三年(一六〇八年)。風山和尚が開基となり、大超智仙大和尚により開山されたのが始まりとされており、また、土師村民にとって大変名譽なことに、寺域に福知山藩第七代藩主、朽木鋪綱公・第十二代朽木綱張公・第十三代為綱公夫人の墓所をお祀りしていることは周知のことです。

さて、出発後車中にて和尚さんの先導にて全員でお経をあげて道中の無事を祈願し、住職・総代さんの挨拶があり、ガイド役の菅田幸雄総代さんより今日の旅程ルートの説明を頂いた。準備して頂いてあったお菓子やお茶が配られ、また、お寺より詳細な旅のしおり。

その後今回の旅に同乗して頂いた福知山史談会事務局長、中村邦夫様より用意頂いた資料を見ながらの熱のこもった「講座」を拝聴した。

車は舞鶴若狭道を進み、熊川宿道の道の駅でトイレ休憩。九時三十分、最初の目的地である「覚



傳寺様」に到着。境内まで大型バスが入らないため、近くの駐車場から約十分ほどかかるが、足の悪い参加者のため、ご住職と奥様がわざわざ自家用車でお迎えを頂き恐縮の限りであった。早速に本堂に入らせて頂き、お参りをすませた後、宮前ご住職より朽木家菩提寺であった「梅長院」様の事、また、お位牌を作り直して「覚傳寺」の位牌堂に祭る事になった経緯等お話しに耳を傾けた。お話の後、位牌堂にて改めてお参りをする。お茶を頂いた後、十時過ぎに出発、再び数名の方をご住職と奥様に送って頂き、更には全員に地元のお菓子とお土産まで頂戴する。

琵琶湖西岸を南下し、左に琵琶湖・湖面に鳥居のある白鬚神社をみて、いよいよロープウェイ乗り場に到着する。一五〇メートルをわずか五分で山頂に到着。今日のもうひとつの楽しみであるびわ湖バレイで昼食を頂いた。天気予報では晴れはおろか大荒れも覚悟していたにもかかわらず、山頂では陽も差して、見事な景色を楽しむ事が出来た。



標高1,100mまでロープウェイで5分のびわ湖バレイ

一時間弱の昼食を終えて午後一時前には第二の目的地である「興聖寺」に向けて出発する。道端の芒(すすき)が美しい。杉木立の間の紆余曲折の道走り、急な坂道を歩いて朽木の名利「興聖寺」に着く。本堂にて圓覚寺の和尚様を導師に全員でお経をあげる。その後、森泰孝



標高1,100mまでロープウェイで5分のびわ湖バレイ



山頂のテラスから絶景を望む

大般若経六百卷修復完成法要

(1月12日)

一昨年より取りかかっておりました、大般若経六百卷の修復が無事完成し、福知山市内十三ヶ寺のご随喜を賜り転読法要を厳修致しました。毎年1月12日の大般若法要はどなたでも参詣して頂けますのでお参りください。



真新しい12帙600巻の経箱を開幕



修復業者京都桜汀堂より引き渡し式



大般若転読法要



転読し般若の風を参詣の方に差し向ける



祈禱太鼓の音が堂内に響く



圓覚寺お檀家並びにご参詣の家門繁栄・身心堅固をご祈禱する

写経と共に新たな年に願いを込めて

圓覚寺写経部代表 鈴木満子

新年明けましておめでとうございます。皆様ご家族お揃いで新しい年をお迎えの事とお慶び申し上げます。今年は平成最後の新年となります。今年は何事もなく過ぎることを祈るばかりです。

月第一、第三火曜日の午前十時〜十一時迄行っております。どなた様でもご参加下さい。お待ち申し上げて居ります。

さて、圓覚寺での写経部もお陰様で静寂の中に筆先を追いつら一字一字を無心で書く写経はとても貴重な時間です。そして書き終えた後のほっとするお茶の時間。又、情報を得ることの出来るまたとないひとときでもあります。これからもお寺と地域の方々や子供達が自由な交流の場となりますことを願って居ります。

尚、写経部は現在十三名で、毎



花まつり (土師保育園園児)



秋彼岸会(9/20)には、福知山史談会事務局長、中村邦夫様に『朽木家13代とその後』の演題にてご講演を頂きました。

弔意

新聞報道等でご周知の通り、旧福知山藩第十六代朽木彰様が一昨年十二月二十五日に亡くなられました。お通夜にはお参りさせて頂き、昨年末のしるべ会にもご案内頂いて、ご縁の方々と交流をさせて頂きました。朽木家墓所としてご縁を頂き、親しくさせて頂いただけに大変残念な気持ちでいっぱいです。しかしながら今後とも歴史の重みを次代へ伝えるべく勉強を重ねてゆきたいと思っております。

